

錢龜遺跡は、種子島の南端の門倉岬に程近い標高約 85 メートルの台地上に位置します。遺跡の北西部には、やや大きな谷があり、かつては湧水があったといいます。

この遺跡では、約 7,300 年前の鬼界カルデラ由来の火山灰や火碎流堆積物の下に縄文時代早期の遺構や遺物が見つかり、更にその下から旧石器時代の細石刃核や細石刃が出土しました。この発見によって、錢龜遺跡が日本で最も南に位置する細石器文化の遺跡となりました。さらに、発掘された接合資料により、円礫を分割し、割り取った素材から船野型細石刃核を製作する基本的工程が復元でき、他地域との技術の比較も可能となっています。



錢龜遺跡出土細石核接合資料



発掘風景